

地元団体からの主な意見(基本構想素案の地元説明時に聴取)

資料3

1. 松戸駅周辺活性化推進協議会 開催日:7月30日(水) 参加者:37名

○団体の概要: 駅周辺の商店会及び大型店などで構成された、商業活性化及びイメージアップに向けたまちづくりを推進する。

主な該当項目	意見の概要
商業・業務ゾーン	商業地域をどのようにしていくか。商業・業務ゾーンの活性化をどのように進めていくのかが、構想では見えてこない。
	取り組みの中に「商業施設の立地誘導」とあるが、シティホテルの誘致の考えはあるのか。
	まちの回遊性を高めるためにはどうしたらいいか。構想には回遊性に関する表記が不足しているので、その戦略を考えてほしい。
シンボル軸	デッキからメインストリートへのエスカレーターの設定、新駅ビル南側の動線の確保など、配慮してほしい。
ゾーンにとらわれない取り組み	市民劇場などの公共施設再編について、どのように考えているか。
全般	基本構想はハード面が強い。ハードとソフトをどう組み合わせしていくか、考えてほしい。
その他	本構想は、「まちづくりの指針であり、財源的な裏づけはない」と記載があるが、30年、50年後を見据えたまちづくりが実現できるのか。

2. 松戸駅東口開発委員会 開催日:8月7日(木) 参加者:15名

○団体の概要: 東口駅前の自治会及び商店会で構成された、東口のバリアフリー化や商業活性化などまちづくりを考える。

主な該当項目	意見の概要
新拠点ゾーン	新拠点ゾーンの計画づくりの際、地元の意見を取り入れていく考えはあるのか。
	新拠点ゾーンの成功は、駅とのアクセスにかかってくると考えている。
	新拠点ゾーンに、市民会館や図書館など、市の施設を入れていく考えはあるのか
商業・業務ゾーン	現在のバスターミナル用地の活用は考えていく必要がある。
	駅が新しくなり、駅ビルができたなら、外に人を出すようなしなかけを考えることが重要である。
	核となる施設を造り、物販店を呼び込むことにより、回遊性を取り戻さなければならないと思う。
その他	財源的な裏づけはないとあるが、現実的に財政的な見直しはあり、まちづくりをやり遂げられるのか。

3. 松戸まちづくり会議 開催日:9月16日(火) 参加者16名

団体の概要: 駅周辺の町会・自治会で構成された、「暮らしの芸術都市」の取り組みなど、地域による創意工夫のまちづくり活動を推進する。

主な該当項目	意見の概要
商業・業務ゾーン	商業地域に店舗が入らないマンションができ、まちに秩序がなくなっている。しっかりとしたスタンスを持ってやってほしい。
水・歴史資源	水陸両用バスはどれだけの方が利用するのかが心配である。バスの利用者をどのようにまちに呼び込むかが重要である。
	矢切の渡しの松戸側には現在何もないので、観光拠点の整備については賛成である。矢切の渡しといかに連携させるか。
全般	松戸市は高齢化が進行しているので、駅周辺の活性化を図る、若い人をまちに呼び込もうという取り組みは賛成である。
その他	基本構想は長期的なスパンでのまちづくりの計画であるのだから、定期的に更新していく必要があるのではないか。
	基本構想素案にしる、JRの駅改良計画にしる、地元や市民の意見を聴いて進めてほしい。